



遣隋使が使った船 オールがついている



有史以前に漁業に使われた丸太舟

SHIP NEWS PAPER 船新聞

発行者
2組
千葉俊哉



アヘン戦争 英国対清

アヘン戦争は一八四〇年に勃発した清（中国）とイギリス（以下英國）との戦争のことです。簡単に説明すると英國は清から茶、陶磁器、絹を大量輸入し、アヘン（麻薬）しか輸出しないという不平等貿易を行っていました。それに怒ったので清は戦争を仕掛けたのです。

現在は漁師の方が乗ったたり、大きな船に多くの人を乗せてクルーズなんてこともしている「船」。私たちの食卓においしい魚を届けてくれるのは他でもない船でしょう。では、船はいつできて、どのように進化して現在に至ったのでしょうか。歴史を追ってみましょう。そもそも船のはじまりは有史以前で、当時は丸太舟として現在と同じく漁をするために用いられていました。

アヘン戦争は一八四〇年に勃発した清（中国）とイギリス（以下英國）との戦争のことです。簡単に説明すると英國は清から茶、陶磁器、絹を大量輸入し、アヘン（麻薬）しか輸出しないという不平等貿易を行っていました。それに怒ったので清は戦争を仕掛けたのです。

現在には朱印船貿易に公益船として六百人乗りの大型船が使われました。江戸幕府幕末にはそれまで出されていた大船建造禁止令が解除され、一層大型船の製造が盛んになりました。太平洋戦争後はおよそ八十パーセントの船を失いましたが、外国との友好関係がよくなり深まり、貿易のために多くの船の製造が進みました。今では大型から小型まで多種多様な船がありま

も活躍していました。江戸初期には朱印船貿易に公益船として六百人乗りの大型船が使われました。江戸幕府幕末にはそれまで出されていた大船建造禁止令が解除され、一層大型船の製造が盛んになりました。太平洋戦争後はおよそ八十パーセントの船を失いましたが、外国との友好関係がよくなり深まり、貿易のために多くの船の製造が進みました。今では大型から小型まで多種多様な船がありま



現在の客船

アヘン戦争の船の違いとは？

船で観光クルーズ客船

菱垣廻船と樽廻船、役割とは？

菱垣廻船（ひがきかいせん）とは、日本の江戸時代に、大坂などの上方と江戸の消費地を結んだ廻船（貨物船）です。菱垣とは、両舷に設けられた垣立（かきだつ）と呼ばれる舷牆に裝飾として木製の菱組格子を組んだ事に由来します。樽廻船（たるかいせん）とは、日本の中戸時代に、主に上方から江戸に酒荷を輸送するために用いられた廻船（貨物船）です。酒

樽積廻船、酒樽廻船、樽船とも呼ばれます。

菱垣廻船は地域の特産物や米などさまざまものを運び、樽廻船では酒

樽廻船 当時酒を運んだ
当時の様子 手前に蔵屋敷

現在、横浜港に展示してあります。一九五〇年までの外国航

路時代の大型客船、例えば「冰川丸」のようないわゆる「氷川丸」の船型が特徴でした。これは大洋を横断する定期航路に就航する客船は荒天時の耐候性を考慮しなければならないからです。海外旅行の主役を飛行機に譲り、目的地へ早く移動するためではなく目的的で行く過程を楽しむのが目的となつたクルーズ客船には高速性の要求は低くなり、いつそう居住性が重視されるようになりました。

編集後記

歴史の授業で学んだ・興味を持つたことを詳しく調べ、できるだけ具体的に述べ、できるだけ具体的にまとめてみました。船は海上での嵐など災害に負けないように進化を続けてきたことを学びました。

編集委員 千葉俊哉